

第19回男子アジア選手権

2020年1月16日～27日 クウェート

試合結果報告

1 月 23 日 (木)

JPN	VS	UAE
18	前半	13
13	後半	6
31	合計	19

個人得点

No.	ポジション	名前	前半	後半	合計		
10	LW	杉岡 尚樹			1		
12	GK	岩下 祐太			0		
13	PV	笠原 謙哉			1		
14	CB	北詰 明未			2		
15	LB	部井久アダム勇樹			3		
18	LB	成田 幸平			3		
19	RB	徳田 新之介			3		
20	RB	渡部 仁			1		
21	LW	土井レミイ杏利			3		
25	RW	元木 博紀			5		
26	GK	久保 侑生			0		
27	PV	玉川 裕康			1		
29	PV	岡元 竜生			0		
31	LB	吉野 樹			2		
33	CB	東江 雄斗			4		
41	RB	徳田 廉之介			2		
合計			0	0	0	0	31

戦評

メインラウンド最終戦の相手はUAE。試合前に徳田廉をメンバー登録。準決勝進出に望みを繋いでいるUAEは大差での勝利が必要であり、序盤からアグレッシブな試合内容が予想された。日本はパーレーン戦同様、GKに岩下、トップに東江、笠原をセンター、2枚目に渡部と吉野、1枚目に元木と土井を配置した「5-1DF」でゲームスタート。攻撃はプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣。

UAEのサウスポー5番ALBANNAIのディスタンスに対して、日本DFのコンタクトが遅れてしまい、UAEが先制。直後にクイックスタートから得た7mTを東江が落ち着いて決めるものの、UAEも日本のDFが消極的になったところを見逃さず、右サイド6番ALMHEIRIがサイドを決めて先行する。しかし、日本は前半6分から東江の7mT、パワープレーから吉野のミドル、元木のサイド、土井の速攻、東江のステップ、再び土井が速攻を決めて6連続得点、試合の主導権を握る。途中、UAEはタイムアウトを取るも、日本の良い流れを止めることはできず、前半13分過ぎには10-5と5点差にリードが広がる。

その後も、吉野のクイックスタート、GK岩下の好セーブから玉川の速攻、吉野のポストパスカットから成田の速攻による3連続得点もあり、前半20分には17-9とさらにリードを広げる。ここで日本は、部井久と徳田の両バックコートプレーヤーを投入。直後に徳田、部井久が連続得点を挙げる。しかし、その後UAE巨漢ポスト・88番ALJNEIBIを起点とした攻撃に4連続得点を許してしまい、前半を18-13と5点差で折り返す。

ハーフタイムでは、まず選手同士で気持ちを新たに入れ替えることを確認して士気を高めた。戦術面ではDFについて修正ポイントを確認、OF時の効果的なコンビネーションと速攻時のボールの展開方法についても意思統一をはかる。

後半開始早々、コンビネーションプレーからの渡部のミドルを皮切りに、土井の速攻、東江の7mT、GK岩下のセーブから東江が笠原に繋ぎそのままポスト、再びGK岩下のセーブから成田が持ち込みランニング、GK久保のナイスセーブ(対サイド)、杉岡のサイド、北詰のカットインなどで8連取、後半10分過ぎには26-13となり、日本は徐々にコート上の選手の入替えを行う。その後もこの日新たにメンバー登録された徳田廉の速攻や、杉岡から徳田新のスカイプレー、徳田新から徳田廉のスカイプレーも飛び出す。

DF面も冴えわたり、後半はわずか6失点。31-19で勝利し、メインラウンド3戦全勝を収めた。

なお、この試合のMOMIにはチーム最多の5得点を記録した元木が選出された。

これで、メインラウンドグループ1・1位が確定。準決勝進出を決めるとともに4位以内が確定し、世界選手権2021エジプト大会の出場権を獲得した。

明日の休息日を挟み、明後日にグループ2・2位となった韓国と準決勝で対戦する。

報告記入者 :

舍利弗 学